

院内取り組みについて



DMAT 活動

奈良県には赤十字病院が存在しないため、これまでも災害時や感染症のアウトブレイク時には県立病院がその代わりとなって活動してきました。皆さんの記憶に新しい東日本大震災時にも奈良日赤隊として、津波災害の当日に召集、翌朝に奈良を出発し、岩手県の野田村（右の写真）で奈良県西和医療センターのチームが活動しました。2016年の熊本地震においても、奈良 DMAT 奈良県西和医療センターの部隊を派遣しています。DMAT 隊員以外にも広く災害医療を理解してもらうために現地の活動の様子を報告する研修会には研修医全員が参加します。さらに、毎年 11 月には、病院職員全員参加型の災害訓練が開催され、研修医もトリアージに始まる災害時救急医療の考え方と具体的な実践法を学びます。



東日本大震災救護班
奈良県西和医療センターチーム（岩手県野田村）



2016年熊本地震に派遣された DMAT 隊（奈良県西和医療センターチーム）

令和6年（2024年）能登半島地震被災地域への支援活動

2024年の元旦に発生した能登半島地震では、西和医療センターDMAT隊は、発災当日に病院に集合、要請に基づき1月4日から活動を開始しました。金沢市の石川県立中央病院に搬送される救急患者さんの診療にあたる任務につきました。一方、日本赤十字社の奈良県支部の救護班活動においても、当院の救護班を輪島市に派遣。救護所の巡回診療を主なミッションとしつつ、自動ラップ式簡易トイレの組み立てや設置業務にも携わりました。

また、全国自治体病院協議会・全国知事会の要請に応える形で、奥能登の珠洲市総合病院に感染管理認定看護師を含む主任クラスの看護師を2クール2名ずつ、市立輪島病院にも2クール2名ずつの主任看護師を派遣しました。トイレやシャワーもなく、寝る場所や食べ物にも不自由する環境でしたが、現地の医療スタッフと力を合わせ、被災者に寄り添う看護を提供してきました。研修医を派遣したわけではありませんが、病院として、積極的な被災地支援活動を私たちの使命と考えています。西和医療センターの災害訓練時には、研修医全員に参加してもらい、有事に備えるスキルを学んでもらいます。

院内 DMAT チームの被災地派遣（石川県立中央病院での活動）



院内日本赤十字チームの被災地派遣（石川県輪島市での活動）



院内看護師の被災地派遣（珠洲市総合病院・市立輪島病院）



院内災害訓練

毎年11月の土曜日は、救急外来以外の業務をストップして、病院のスタッフ全員参加の災害訓練を実施しています。訓練には医師、看護師を始め、中央放射線部、中央検査部、中央手術部、薬剤部、臨床工学技術部などすべての院内スタッフが役割を分担し、奈良県広域消防組合の協力を得て、救急車も本番さながらに走ります。近隣で大規模災害が起こったという想定で、次々に運び込まれる救急患者さんを病院玄関ホールでトリアージし、救急外来では、赤、黄、緑のチームに分かれて、それぞれの領域で救急患者の治療にあたります。研修医は、この訓練の中心であり、トリアージや各チームでの治療に携わります。事前の机上訓練で、トリアージの行い方や、災害時の本部（院内設置）との連絡、手術部や病棟との連絡をどのように行い、どのように外部医療機関と連絡をしているか等を学んだうえで、当日すべてのスタッフが各々の役割を果たすシミュレーションに自ら参加することで、災害時の行動力が養われます。



COVID-19 診療（研修医の関わり）

2019年に始まったCOVID-19パンデミックですが、2020年1月にダイヤモンドプリンセス号が横浜港に寄港する少し前に、実は奈良県で日本人の2次感染者がはじめて出ました。この症例は奈良県立医科大学附属病院に収容されましたが、2月5日には当院でも帰国者接触者外来を開始し、4月にはCOVID-19疑似症患者の収容、5月にはCOVID-19疑い患者専用外来棟（発熱外来クリニック）の稼働、COVID-19専用病棟の稼働が始まりました。

感染拡大の第1波（2020年3-5月）、第2波（2020年7-8月）では、研修医を感染症の最前線には立たせませんでした。しかし、全国的な感染拡大は止らず、特に第3波（2020年11月-2021年1月）においては、県内でも重症病床が逼迫し、当院は大規模な発熱外来を運営しながら、中等症入院の酸素や薬剤での治療に加えて、人工呼吸管理を要する重症患者の入院診療も請け負うことになり、研修医の力なしでは立ちゆかなくなりました。指導医の先生がたと研修医のみんなとも話し合い、COVID-19の入院診療の現場に入ってもらい、実際の診療をしてもらいました。もちろん現場に入るまでに感染防止の訓練を繰り返し、自信を持って現場（レッドゾーン）に入ってもらいました。第4波（2021年3月-5月）は関西では第3波を大きく上回るもので、当院ではECMOをはじめ人工呼吸管理などの重症管理が中心になりました。研修医もこの中に入ってCOVID-19の診療を学んでくれたと思っています。

2023年5月にCOVID-19は5類感染症となりましたが、現在も様々な感染症に対応できる体制を整えております。

